

火は眠る

寒風に立つ 枯れ木の内にも
雪に閉ざされた 凍湖の底の岩の中にも
火は眠る。
春を待つ 私のだましいの中心にも
すべてを焼き尽くすほどの 熱い火が。

唯一無二の「今ここ」を生きる

はっしと燃える火
ゆるゆると 燃える火
遙か彼方からの訪れと内なる想いが
逢い逢いて 今ここ この一瞬に燃える火よ
その無数の連なりを 人生 と人は言う。